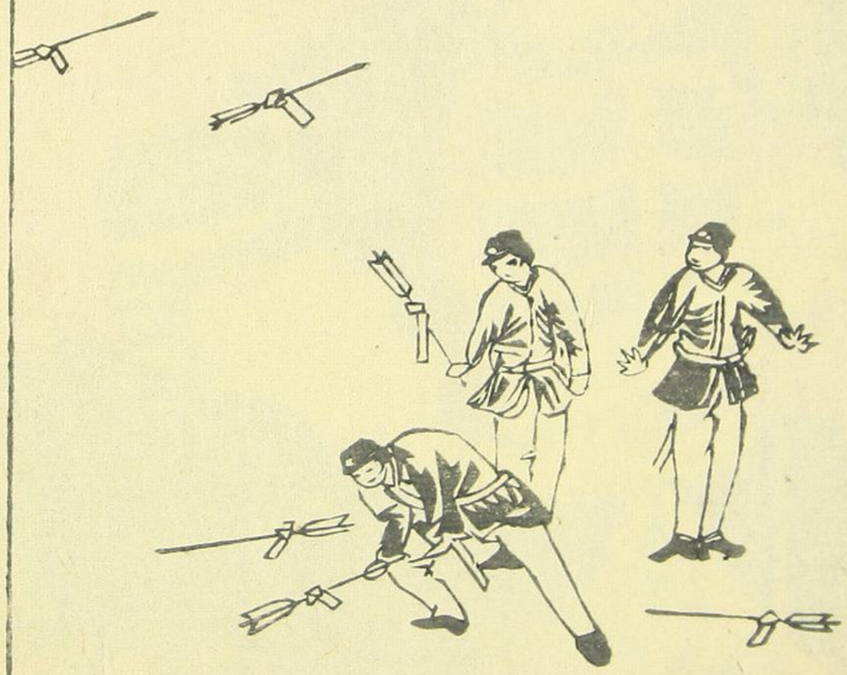
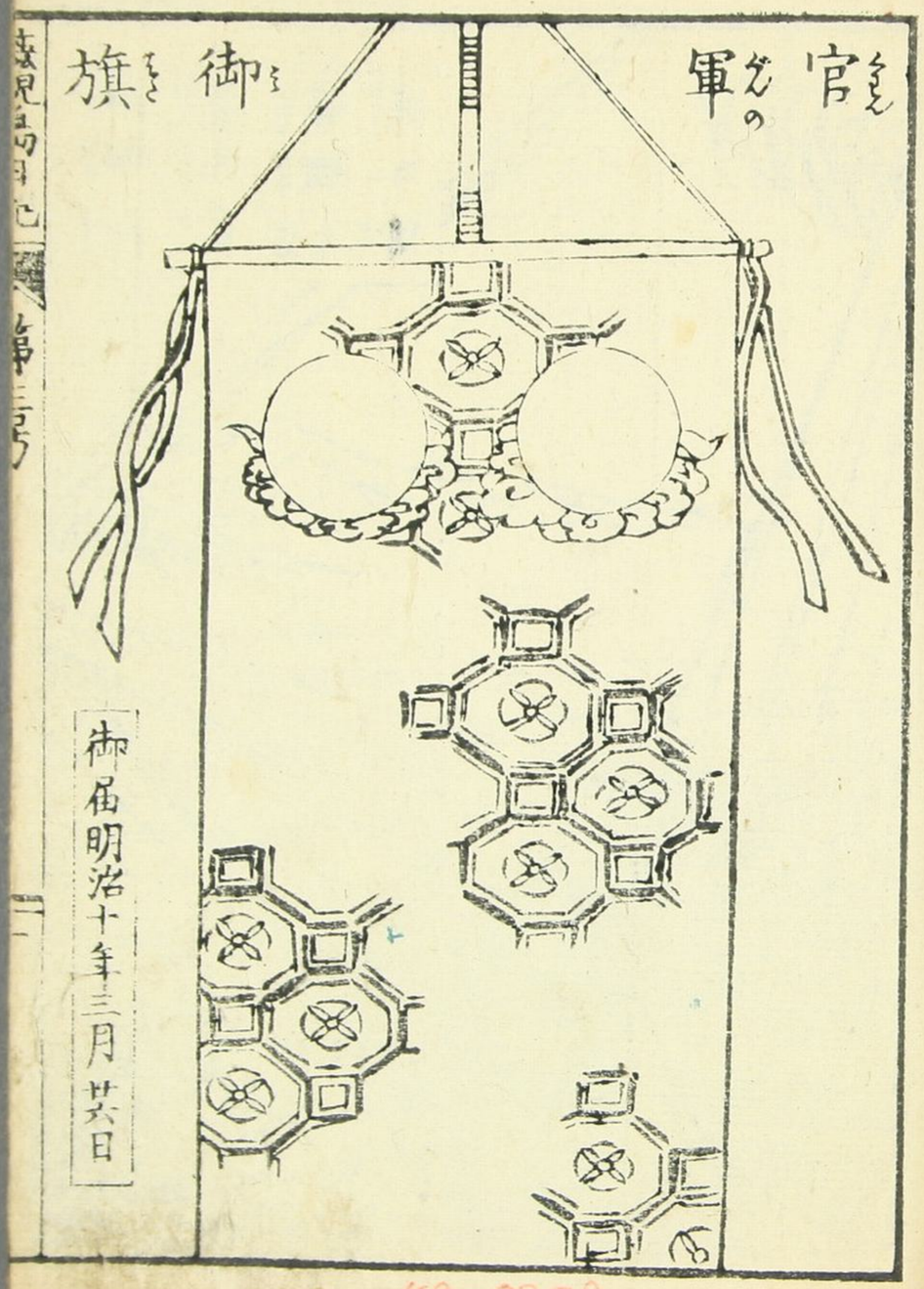
鹿兒嶋戰爭日記
三号

A429
3

鹿兒嶋戰爭日記

三号





御届明治十年三月廿六日

48-7879

賊船紅葉丸竜驤艦分捕の図

備二月廿二日尚又敵へ四十人程植木駅へ押出しるを官軍より火を打ち進んで高瀬を本陣として戦ひ賊方い尚又次第より人数も増員し同日安政橋へも篠原の隊ゞ進撃まるゆへ官軍より八烈しく鉄炮を打出し賊方ゟい死傷もいろ又廿三日の電報ゟい今暁五時より海陸軍とも鹿児島の旧城下へ一時ゟ進撃を敵ゟく却ッて長崎愛媛の両縣下へ進んゞ賊い勢ひをーとゝ

○武州八王子の旧千人同心で帰農せし者との程鹿児島事変ゟ御加勢申上ゟ旨願ひ出る

○へ坂出張の参謀官へ測量器械をあらさ出廻ーふる陸軍省中へい別段軍用電信掛りと設けらるまゝ熊本の電信分局い筑後三池郡の原の町へ設立され又南の関といゝ所へ役されて建築掛りい昼夜寝ずに勉強ーて居ゝ賊船紅葉丸龍驤艦い八代の沖へく奪ひとゝく海岸ゟ引寄せゝ又西京ゟの知らせゝ薩の兵い今月廿一日ゟ船ゟて肥後の白川へゝ開戦ゟ野津少将い歩兵二大隊と砲兵一大隊と率ひて久留米へ繰り込て熊本旧城ゟい綿貫少警視をなとめとして

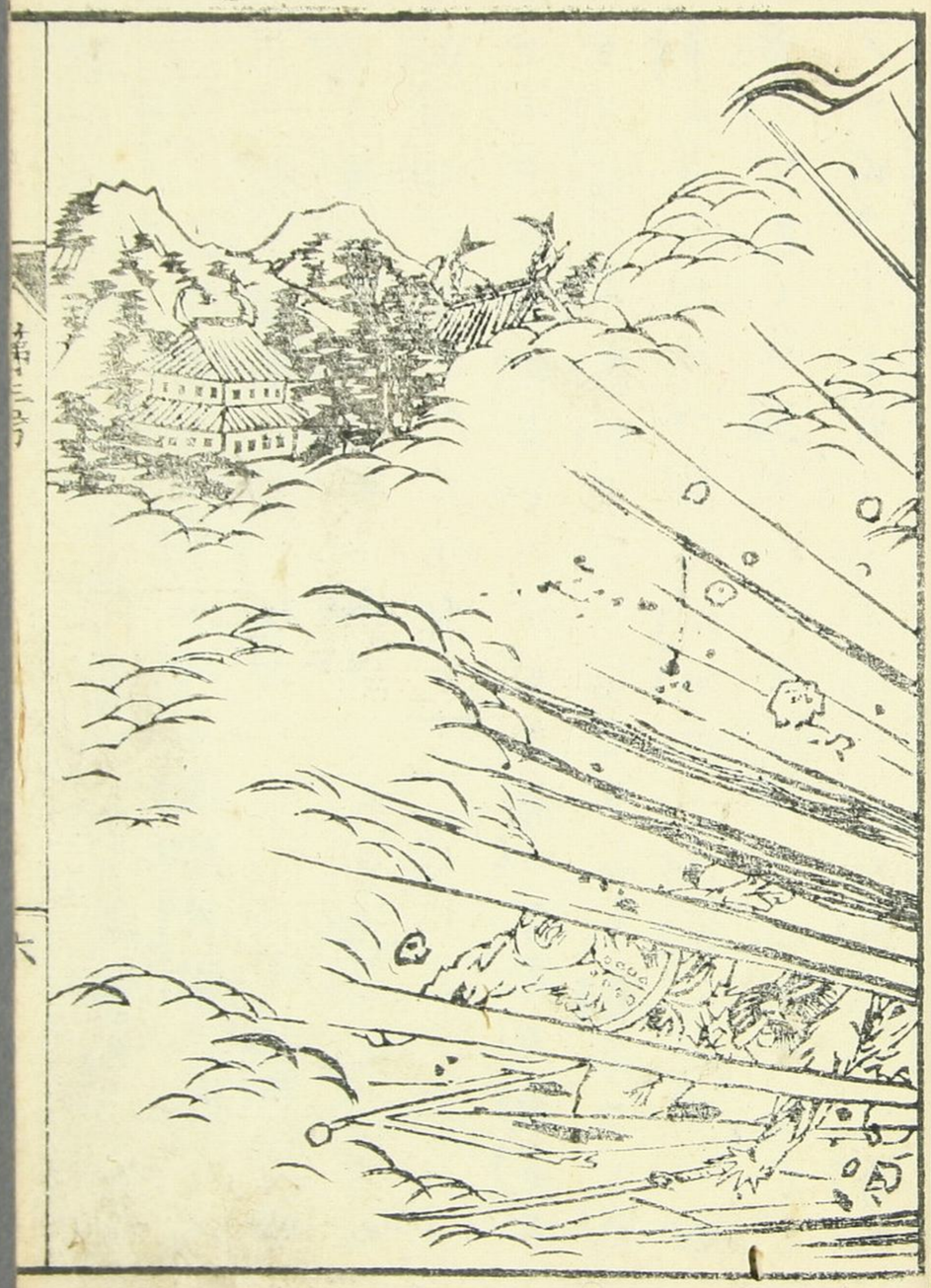
三等大警部より川路池端赤羽深川林小笠原の諸君が巡査七百人を連て鎮臺兵と合併して進撃されし彼の地より廿六日の電報まさ黒田開拓長官は二十五日横濱を出帆し西京へまいりし今月廿二日熊本近辺の老若男女何ども さらだ立ち諏訪山へ逃げのたたり鎮臺兵は賊徒が植えおりしと思ひ急よ手をまはされ練出せし所全く土地の者まく怪しき事もなし暴徒は豊前田の浦辺筑前柳川辺へくり出せしとまた西京まくは太政官代を御所うち御学問所と極まり征討総督の本営は大坂東本願寺の掛所と極まり臨時海軍事務局は神戸へ定められたり

○廿六日の電報は今日島津父子へ勅使として柳原君を差遣はされ随行は花房君で竜驤艦と清輝艦の二艘より陸軍の兵を三大隊と巡査五百人を鹿児島へ差遣はし又同所製造所などの所分はつた山田少将伊東少将仁礼大佐をさしつかはされ廿八日は海兵百人鎮臺兵一小隊出帆鹿児島では士族平民と論ぜず二十歳以上四十歳以下

のものゞ五百人ばかり縣廳を守り居るとまゝ廿六日い官軍へ高瀬口へまゝんで勝利賊へ死骸と弾薬をまゝて遁逃せ一由廿七日ゟ山廣口フシヨケまゝて大合戦の筈とゝゝ電報ゆゝり廿一日ゟ大坂鎮臺ゟ鳥取の旧城内へ繰り込まゝあり西郷へ川尻まゝで出張せしとゝゝまゝ加州金沢の兵も一大隊名古屋へ繰り上げゝある

○西京まゝゝ　主上ゟ両皇后様御駐輦ゟ付かゝ紙ゝ厳重ゟ備への所の上まゝ尚厳重ゟあり又ゝ東京ゟ巡査とゝ招きゝあまゝとゝゝ又同所ゟまゝゝ急変のまゝの合図ゝ府廳の火の見櫓まゝて大鐘を三ツ打つまゝゝ諸官員まゝゝ區長用達殘らまゝ受持の場所へ詰切り新町中立賣下る藩一警察署出張のものゝ宜秋門前へまゝけつけ建仁寺の二警察署出張のものゝ府廳へ欠つけ電信局へ警部一人と巡査二十人出張その外とも厳重ゟ手当ゟ相成る廿七日午後十時五分ゟ発せし電報ゟ同日午前六時ゟ官軍ゝハザマ村ゟ進く戦ひゆう生捕もありとゝゝ又海軍まゝゝ清輝艦ゝ長崎と茂木浦を固め八代ゝ鳳翔艦が固め茂木

官軍の火矢地雷
賊軍よく憤死
の囚



浦い難波艦ゲかさめ賊より分捕り迎陽丸い直ち
官軍方ゲ乗組ミ八代を固め賊船舞鶴丸野茂丸
の二艘も官軍ゲさへ分捕るしたり当時山縣公ハ福
岡ニ居らル日進艦い神戸へ行き浅間艦い下の
関へ向けらるたとりゑ
廿七日の電報ニ廿六日も高瀬口ニ大戦争お
り官軍ゲ勝利まさくし廿七日ハも進んで大戦
争ゲり廿六日い熊本旧城辺へ官軍ゲより地
雷火を志ゲ是ゲたるより賊兵ニ死亡凡そ五十
人もゲりしと同日南の関の八木警部より電報

ハ今日午前九時より高瀬口向ニ三ケ所ニ戦
ゑ又廿七日長崎ようの電報ハ高瀬口で今朝
たゑひ賊を襲ッて追拂ひられども何分手廣の場
ゑ出兵とゑふと申素り彼の地へ兵と繰出せしと
なる長崎上等裁判の某鹿児島へ出張されれど
国境より内へ入ざるゑ拠なく引ゑされ又同
所へ出張したる真宗の僧い一人も帰るゑなく
ぞ又一説ニ一同捕縛ゑれしゑいゑ詳ならぜ
此度の動揺ニつた熊本縣廳と同所裁判所ハ一下
先見船へ是ぞの廳より三里も離れし所へ仮ニ

移され又大坂の砲兵支廠より職人五十人熊本へ向らる堺縣下堺の鉄炮鍛冶職へ残らず同廠へ出雇ふ廿八日又々下の関へ向けて東京近衛と鎮臺の二聯隊で出帆ふ海軍の水兵八十一人戦地へ出帆の筈

○西京より報知の内ふ征討總督二品親王有栖川の宮去ル廿四日行在所へ参内されは学問所ふて陪食仰せ付らる夫より小御所ふて上ふ拜謁は暇とのハツて河村海軍大輔とも御々馬車ふ乗らる建春門より出らる木戸内閣顧問そのわり郷捕がさう見送りそるより流車ふて神戸の銀行へ出る小休ふあり高雄艦へ乗込る出帆ふあり日本艦は勿論各国の軍艦祝砲を二十発づ打ちかけ道筋の外ふ国旗を出して出陣を祝ひ勇ましきなりさるとぞ

○二月廿八日久留米の電報ふ昨夜六時ごろ賊兵高瀬へ出張したるを官軍進撃し賊は寺田へ引き高瀬ハ子ギゲ少々焼失その日午前六時ごろ稲田村の渡し場の番兵へ賊より砲発し官軍は大砲を三十発うち出し賊三十人余り斃れ外ふ戦争

閲覧御

へゐ〻又三月一日の電報に先月廿七日の午前賊
ハハサマ川向ふに出兵し官軍ハ川土手により戦
爭し賊ハ川上より横を打ち官軍ハ新手にて進
撃し〻ひに川向へ追返し賊ハ山へ依り官軍
ハ船楠村へ引揚らまた
○鹿児島暴徒ハ人數凡そ一万人程にて一隊の大
將ハ篠原國幹二隊の大將ハ西郷隆盛と村田新
八三隊の大將ハ池上四郎四隊の大將ハ桐野利
秋五隊の大將ハ長山某淵辺高照など又島津
某が後備をなり又隊中を指揮するものハ西郷小

平太永山弥一郎別府新助同九郎逸見十郎太永
山九成浅井直之進松永清之進高木十二河野四
郎村田三介市本勘介同半左エ門弟子丸應助野
村十郎右中島武彦肥後助右エ門児玉八之進伊
東直二山口小右エ門平山新介等あり先ごろ鹿
児島人より殺害されしとい〻貴島卯太郎ハ辛く
して逃げあかせたりとあり佐々木権中録ハかの
地にて賊徒火薬を掠奪のより火薬へ水をそそぎ
うけ用立ぬやうにし終に菅野氏とそのほか神戸
まで帰着せり又大坂の鎮臺より又ごろ跡探出し

より雄水峠箱根山とへ番兵備へおかる

○先月十八日より福岡縣令渡辺清君が管下の人ふたゝび此度鹿児島事件より拙者熊本と福岡縣の境まで出張いたし若し賊徒が當縣下へ来らば身を粉にしても彼と論し人々を安堵させんと管下へ達せしとあり

○陸軍省西郷井田両君隔番に宿直あるべき所此用多きゆえ退省すると出来ざる由夜詰きの砲兵本廠へ巡ゑいたるとあり

余い四号に出る

010190510102